奥能登

奥能登は　島の髄なり　むまれてしむで　生まれて死んで　珠洲は鈴鳴り

脳髄に　打ち込まれたる　木柱の　星座見上げて　わをつなぐ

沖能登は　玄の玄なり　イルカ星　点じて消えて　三密遊戯世（さんみつゆげゆ）へ

椿讃　出雲路ゆえの　幽(かくり)里　出湯入湯に　湯醒め裸生（らしょう）ぞ

紋紋と　いのちばらまく　をろち舞　月夜をぬけて　さちはこびつぐ

とほしべに　めがみ　たちゆく　ひげだいこ　やぶれかぶれの　大彦舞もと

幾山河　巻きに巻いての　晒しっ馘（さらしっくび）血糊り袴の　意気軒高よ

男鹿女鹿（おがめじか）　濡れ行灯（あんどん）　に　手を添えて　子連れの妣（はは）は　朧なりけり

とてもなく　行方悲鳴の　仏具店　孫の手を借り　阿弥陀仏　仏

添え軸の　きざはしさやげり　冷えたる能　この世の涯（はて）を　踏み外し跳ぶ

吾はもう　諸国一見　すら見えぬ蛾　メコンラプラタ　ガンガーエニセイ

飛び銀河　遍路往来　花入水　いのちからがら　踏み越えこえて

あらたまに　燃え立つ山河　あおみどろ　巫女の緋袴　くれない天女

「鎌田東二　花折立待津軽鎮魂10首詞書

「諸国一見の修験者」としｒて京都・花折峠から津軽海峡（恐山・岩木山・立待岬）まで鎮魂供養の旅を続け、函館山の麓で佐藤泰志の霊と再会す。

花と散る　身も心もたましいも　立待の海に　沈みて浮かぶ

斬り合いの　言葉を捨てて　虚空（そら）を翔ぶ　花折峠は　今日も吹雪か

新古今　西行定家　後鳥羽院　言霊坂をともに　転びまろびつ

海峡ぞ　下北津軽の　晒し首　啄木修司に　御詠歌捧ぐ

恐山　行方不明の　たま拾い　重波（しきなみ）跨ぐ　海遍路

差し違え　同行二人の　三密路（さんみつろ）　荒魂（あらたま）高鳴り　悉皆成仏

魂求（たままぎ）の　紺碧紅玉　宇曾利湖を　過ぎて　ひといき極楽浜

都から　遠く離れて　顕幽（けんゆう）の　堺を越えて　星砕け散る

海峡を　越え逝く　幽霊船（たまぶね）に　吾は身を投ぐ　彼岸花とも

ひるめしは　まだかはだかで　うみにいる　とこよはてなし　かっぷくのはら